

北陸電設ニュース

No.58

平成30年、この元号の最後の師走を迎え、来年5月には新たな元号に変わります。どんな元号になるのか楽しみでもあります。先日ですが電気工事技能競技全国大会の観戦に両国国技館に行ってきました。技能競技大会とは2年に1度、全国の予選会より選抜された精鋭たちが、学科競技と制限時間3時間で実施の作業競技を行い、電気工事の技を競い合います。北陸からは2名選出され、その1名は富山県の選手でした。国技館のアリーナ内に設置された競技ブースで44名が一斉に作業を開始し、選手個々の作業手順も違えば道具も違い、その磨き上げられた個々の技に、同じ電気工事業でありながらも圧倒されました。実際に競技大会を体感し、当社からも選手を輩出してみたい思いにかられ、今度は当社の選手の応援に両国国技館に訪れたいと思ったものです。

今年は暖冬の予報ですが、必ず降雪はあります。交通災害ゼロを目指し、雪道は特に安全運転を!! 私も心がけます。

代表取締役社長 藤岡健一

もうすぐ定年

安部 孝夫



北設ニュースが発刊されたのがいつだったのか遡ってみたら、平成21年6月号でした。今回でNo. 58であり、9年と半年継続している。読み返すと北設ニュースはそこそこ面白いと思います。その時点での会社の仲間が何を考えているのか知ることが出来るからです。仕事に関する事が多く記載されていて、今後の抱負についての熱い思いが伝わります。皆様の意気込みが感じられ、頼もしく思います。

自分は今回の投稿で4回目となります。さてどうしたものかと考えますが、もうすぐ定年を迎える年齢となり、体力的に衰えが出てきました。高所作業や重い物を持ったり締め付け作業の後は、体のあちこちが痛みます。また、老眼により細かい文字が読みづらいし暗い場所ではライトが欠かせません。計装班に移動してからは工場内作業なのでそれに体が慣れてしまい、外仕事はもう出来ないと思います。

自分が北陸電設に入社したのが平成5年2月18日(当時32歳)です。現在入社してから25年と9ヶ月です。振り返ると、もう26年目になっていて驚きです。今まで色んな事がありました。決して順調な道のりではなく、むしろ困難な出来事の方が多かったです。北設カラーは常に勉強する集団であり、モラルを持ち社会に貢献するという、素晴らしい志だと思います。

さて、私事になりますが自分には現在、病院に入院中の父親がいます。余命宣告を受けたのが7月24日で1~3ヶ月とのことでしたが、すでに3ヶ月は経過しています。誤嚥性肺炎が原因で、現在高カロリー点滴により生命が繋がっています。あとは本人の生命力に任せてあります。自分に出来ることは毎日病院へ顔を見に行くことぐらいです。父親は認知症で耳も遠いし、喋る言葉もよく分かりません。なので会話も出来ずコミュニケーションがとれません。母親は既に癌で亡くなり、父親はこのような状態です。両親ともに親孝行らしいことが出来なかった自分は後悔するばかりです。

是非、社員の皆様に言いたいのですが、両親への親孝行は大事です。自分があるのは両親のおかげであります。感謝の気持ちを忘れてはいけません。何かとりとめのない内容となりましたが、自分を年を重ねていく上で、どうすれば良いのか考えるようになりました。家族に迷惑を掛けず、健康でポックリ死ねたら最高だと思います。

今月のトピックス



菅沼ダム線の作業現場です。とても広い範囲で装柱部取替作業を行っています。



業務(着工・竣工等)

○立山室堂地区内火山ガス保安施設(電光掲示板等)修理工事を竣工

○室牧発電所ほか電力量計更新付帯工事を受注

その他

・全作業車にバックモニターとドライブレコーダーを搭載しました。



もうすぐ一年生

桑名 浩実



下の子(息子)が来年の4月に小学校へ上がります。胎児、新生児、乳児、幼児(園児)と言う期間を経て児童(小学生)になるのはあっという間です。彼は今から少年という時代に入ります。少年少女時代はセピア色とよく聞きますが、彼の今から過ごす少年時代はきっときらきらと輝いているでしょう。

上の子は小さい頃からおしゃまなところがあつたせいか、5歳の頃には幼児というより少女に見えました。いつだったか友達との出来事を聞いたときに「彼女にはもう彼女の世界があるんだ」と感じました。彼女は今、毎日小学校へ通い、家で宿題をして、弟と言ひ合いになってぐずったりしています。そんな姉を弟がどう思っているのかは判りませんが、宿題をするために彼女が別の部屋行くと彼がちゃっかり着いてきたりします。遊ぶ内容は少しずつズレてきているので、二人でいても遊んでいる内容は全く違っていることがあります。ついこの前、戦隊物の合体ロボットがフル装備で家にありました。「パパが買ってくれた」そうです。「ママには内緒だって」と言ってしまうところが幼児。「幾らかは教えん」「ひみつ」と何を聞いても黙ってしまうところに成長を感じます。同じような毎日を経験しているはずなのに彼らの何が輝いて居るのかという目です。表情です。全身です。ちょっとした事に目をまあるくし大きな声で驚いたり全身で笑ったり。毎日が新しい事との出会いなのかもしれません。彼らにとっての明日は白い光で何色も着いていない景色が広がっている日なのに目を凝らすと何かが見える明るい日なのではと感じます。

4月になって新入社員が来る度に「あと〇年したら、うちの子もこうなるのかな」と思います。新入社員の方々は学生(少年)時代を経て、今は青年時代を過ごしているようにも見えます。自分は何時代を過ごしているのだろうと思いますが、それが判るのはその先の時代になったときに振り返って判るのかもしれない。そう考えると先の時代からみれば今の時代は同じように輝いているのです。まだまだ新しい出来事との出会いがあります。見ようと思えば見たい物事が見えます。何にでもなれます。そう考えると毎日は素敵な可能性を持った日になります。

(あとがき)先日、彼が化石になりたくないと言いました。そういえば短冊に「大きくなったらブラキオサウルスになりたい」と書いていました。「大丈夫。恐竜みたいに強く格好良くなるけど人間のままだよ」となだめると「七夕に書いたのに何でなれんが!」と返されました。